

科目「現代の国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代の国語	単位数	2単位	学年・学科	2学年・全科
使用教科書	『新編現代の国語』（東京書籍）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
学習の到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
取得可能な資格	特記なし。
授業を受ける心構え	授業には意欲的・積極的に取り組み、教科書やノート類の忘れ物をしないこと。また、提出物は、必ず期限を守って出すこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	ルリボシカミキリの青 〈言葉と生活：話す・聞く〉 水の東西 〈言葉と生活：読む〉	・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え、スピーチする。 ・日本と西洋の対比の例から、文化や考え方の違いを理解する。 ・日本文化について、考えたことを発表する。	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (5月中旬) 学期末考査 (6月下旬)
9 10 11 12	スキマが育む都市の緑と 生命のつながり 鍋洗いの日々 美しさの発見	・都市部のスキマに植物が生える理由について考え、生態系の果たす役割について知る。 ・働く人の思いを理解し、社会の中で生きる自分の将来について考える。 ・知識の世界を広げる「発見」と、心の世界を広げる「発見」を理解する	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (10月) 学期末考査 (11月下旬)
1 2 3	真の自立とは 〈言葉と生活：書く〉	・「できる」「できない」「自立」「独立」について筆者の考えを理解し、現代における「大人になる」とはどういうことかを話し合う。	一斉授業 (座学)	平常考査 学年末考査 (2月)

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的な学び 【 】は評価方法
国語分野の基礎的・基本的な漢字・語句・語彙・文法・表現を理解し、生活全般に必要な知識を身に付けようとしている。 【考査、授業態度、発表】	文章の意図を読み取り、要旨をまとめると共に自身の思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、「話す」「書く」といった表現する能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	文章内容への関心を持ち、意欲的に「聞く」態度を持つ。国語を理解することへの向上を目指して、「話す」「書く」ことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【考査、レポート、出席状況】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学び	比率(%)	その他
定期考査	30	20		50	学習到達度の確認
平常考査	10	10	10	30	予習・復習の確認
提出物等			10	10	
授業態度・発表			10	10	
				100%	

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	全学科	2	2	高等学校 公共(帝国書院)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。資料から必要な情報を調べまとめる技能を身につける。		現代社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を養う。		よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏課題 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1部	1節 青年期と社会参画	4	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。	他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第1章	2節 宗教・思想・伝統社会と文化	5	宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し身に付けている。	人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容をわかりやすく表現している。	宗教や日本の伝統文化について積極的に調べている。
第1部第2章	1節 倫理的な見方・考え方		選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。	思考実験など通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	様々な思想について積極的に学ぼうとしている。
第1部第3章	第1節 社会の基本原則と憲法の考え方	6 7 9	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。	公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部第1章	1節 法の意義と司法参加	10 11	法に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。	自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部第2章	1節 民主社会と政治参加	12	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

	2 節 国際政治の動向と 平和の追求	1	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	我が国の安全保障と防衛, 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
第 2 部 第 3 章	1 節 市場経済のしくみ	2	市場のしくみや金融、財政のしくみについて理解している。	自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	市場経済の機能と限界, 金融の働き, 財政及び租税の役割などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
	2 節 豊かな社会の実現		豊かな社会実現のためのしくみや制度について理解している。	豊かな社会の実現に向けて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	職業選択, 雇用と労働問題, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。
	3 節 国際経済の動向と 格差の是正	3	国際経済の仕組みについて理解している。	国際経済の仕組みについて多面的・多角的に考察し、表現している。	経済のグローバル化と相互依存関係の深まり (国際社会における貧困や格差の問題を含む) などに関わる課題の解決を視野に, 主体的に社会に関わろうとしている。

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学Ⅰ	全学科	2	3	新 高校の数学Ⅰ (数研出版)	ポイントノート数学Ⅰ (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	三角比や集合と命題、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		三角比を図形的に見るだけでなく座標平面に応用して拡張する力や、データの関係性に着目し、データを的確に分析してその特徴を表、式、図で表し相互に関連付けて考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等		定期考査 平常考査 課題プリント 等		平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等	
	4割		3割		3割	

2 学習計画と観点別評価基準 ※履修月は目安

学習内容		月	観点別評価基準等		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第3章 第1節 三角比	1. 直角三角形	4	○三角形の相似の条件を知って活用できる。 ○三平方の定理の意味を理解し、2次方程式の計算をすることにより辺の長さを計算することができる。	○三角定規の3辺の比を知っており、それを利用して辺の長さを求めることができる。	○相似の性質や三平方の定理を使って残りの辺の長さを求めようとする。
	2. 三角比		○正弦・余弦・正接の意味を理解し、その値を求めることができる。 ○30°、45°、60°の三角比の値を求めることができる。	○求める三角比の角が左下にない場合にも工夫をして値を求めることができる。	○30°、45°、60°の三角比の表を作成して関連性を調べようとする。
	3. 三角比の利用	5	○三角比の表を使って、三角比の値を調べることができる。 ○三角比の表を使って、残りの辺の長さやおおよその角の大きさを求めることができる。	○辺の長さを調べるときにどの三角比の値を利用するのかを理解している。	○塔の高さなど実測できないものについて、三角比の表を使って調べようとする。
	4. 三角比の相互関係	6	○三角比の相互関係の式を2つとも知っている。 ○三角比の相互関係を利用して残りの三角比の値を求めることができる。	○直角三角形の図を使って、残りの三角比の値を求めることができる。	○三角比の相互関係を式を変形して導こうとする。
	5. 鈍角の三角比		○鈍角の三角比の定義を理解し、その値を求めることができる。 ○相互関係や(180°－θ)の公式を用いて三角比の値を求めることができる。	○鈍角の三角比についての表の意味を理解している。	○鈍角の三角比についての表を作ろうとする。
第2節 三角比の応	1. 正弦定理	7	○正弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○正弦定理が2つの対辺と対角がある場合に使うことができることを理解している。	○正弦定理を場合に応じて分解して使おうとする。
	2. 余弦定理	9	○余弦定理の意味を理解し、それを利用して辺の長さや角度を求めることができる。	○余弦定理が2つの辺とその間の角または、3辺が与えられたとき使うことができることを理解している。	○三平方の定理が余弦定理の特別な場合であることを知ろうとする。
	3. 三角形の面積		○三角形の面積の公式の意味を理解し、それを利用して面積を求めることができる。	○三角形の面積の公式を導く過程を理解している。	○小学校で学習した三角形の面積の公式との関連性を調べようとする。

用					
第2章 集合と論理	1. 集合	10	☐ 集合について理解している。 ☐ 共通部分・和集合・補集合の意味を理解し、それを求めることができる。 ☐ 集合の個数を求めることができる。	☐ $n(A) + n(B)$ が A と B の和集合の個数にならないことを理解している。	☐ ベン図を使って集合の要素を具体的に調べようとする。
	2. 命題と集合		☐ 命題および真偽について理解している。 ☐ 反例や否定の意味を知っており、それを求めることができる。	☐ 数直線を利用して真偽を判定することができる。	☐ 集合を用いてその命題の真偽を調べようとする。
	3. 必要条件と十分条件	11	☐ 必要条件と十分条件について理解しており、その条件が何条件かを求めることができる。	☐ 集合や数直線を利用して何条件かを調べることができる。	☐ 命題の逆や対偶を自分で作ろうとする。
第3章 データの分析	1. データの整理	12	☐ データの度数や階級について知っており、度数分布表やヒストグラムを作ることができる。 ☐ 階級地の意味を知っている。	☐ 度数分布表やヒストグラムを見て、データの分布の特徴について考えることができる。	☐ データについて関心を持って調べようとする。
	2. データの代表値		☐ 最頻値・中央値・平均値をデータから求めることができる。	☐ 最頻値・中央値・平均値の意味を理解している。	☐ 最頻値・中央値・平均値よりデータの特徴を調べようとする。
	3. データの散らばり		☐ 四分位数を求めて、箱ひげ図を書くことができる。 ☐ 分散や標準偏差を計算により求めることができる。	☐ データが奇数個、偶数個のときの中四分位数をそれぞれ求めることができる。	☐ 箱ひげ図や標準偏差の値からデータの散らばりを調べようとする。
	4. データの相関	1 2 3	☐ 散布図によりデータの散らばり具合を調べて、2つのデータの相関を調べることができる。 ☐ 相関係数を求めて、2つのデータの相関を調べることができる。	☐ 散布図や相関係数により、正の相関がある・負の相関がある・相関がないことを判断することができる。	☐ 2つのデータの相関を予測し、図や計算で確認しようとする。
	5. 仮説検定の考え方		☐ 仮説検定の意味を理解している。	☐ データに対してその仮説が正しいか計算で求めることができる。	☐ データをもとに自分で仮説を立てて調べようとする。

令和5年度 新編生物基礎 シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級
生物基礎	2単位	2学年 農業科・園芸科・生活文化科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編生物基礎」(生基 702), ニューサポート新編生物基礎	

1 学習の目標

・日常生活や社会との関連を図りながら, 生物や生物現象について理解するとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度と, 生命を尊重し, 自然環境の保全に寄与する態度を養う。
--

2 学習計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習活動	考查範囲	評価の方法		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 1節 生物の多様性 (2h) Let' s Start! 実習1 脊椎動物の特徴の比較 A 生物の世界の見方 B 進化の証拠	・地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき, 地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。 ・脊椎動物の四肢の有無, 呼吸の仕方, 殖え方などの特徴について考え, 表1にまとめる。 ・図1の系統樹上でそれらの特徴が現れた位置を推測し, 進化との関係性を見いだす。 ・地球上で生活する生物の多様性は, 進化の結果生じたものであることを理解する。 ・共通祖先から由来した生物は共通の特徴をもつことを理解する。	一学期中間考查	○	○	○

		<発展>生物の種と分類・系統	・生物の種と分類・系統について理解を深める。				
	5	2 節 生物の共通性 (4h) Let' s Start! 実習 2 さまざまな生物の顕微鏡観察と DNA の抽出 A 生物の特徴	・生物と非生物の違いが何かを考えることを通して、生物と非生物を分ける基準が存在することに気づかせる。 ・顕微鏡を用いた微生物や動物、植物などの観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。また、それらの生物の DNA を抽出し、生物が DNA をもつという共通性があることについて考察する。 ・光学顕微鏡の各部の名称とはたらき、マイクロメーターの使い方と細胞の大きさの測定方法について理解する。 ・顕微鏡を用いてヒト口腔内上皮、タマネギの表皮、ヨーグルトの乳酸菌を観察し、スケッチを行う。 ・それぞれの細胞の大きさを測定してスケッチに記録する。 ・観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。 ・ヒト口腔内上皮、タマネギ、乳酸菌の DNA を抽出し、生物が DNA をもつという共通性があることについて考察する。 ・生物のもつ基本的な特徴を理解する。		○	○	○
		3 節 細胞の特徴 (2h) Let' s Start! A 真核細胞の構造 やってみよう 動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官 B 原核細胞の構造 C 細胞の共通性と多様性 まとめてみよう 生物の共通性と多様性を図で整理 <発展>電子顕微鏡で明らかになった細胞の構造 <コラム>ウイルスは生物か	・すべての生物のもつ DNA が細胞のどこにあるかを考える。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・動物細胞と植物細胞に共通する細胞小器官を挙げてみる。 ・原核細胞の構造について理解する。 ・真核細胞と原核細胞の構造を学習し、細胞の共通性と違いについて理解する。 ・細胞、組織、期間の関係性を理解する。 ・ここまでで学習した用語を使って、生物の多様性と共通性を図で整理してみる。 ・電子顕微鏡で観察できる細胞の構造について理解を深める。 ・ウイルスが非生物と考えられている理由を知る。		○		○
		章末まとめ (1h) ・用語の確認 ・まとめ図	・1 編 1 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・1 編 1 章で学習した内容を図で振り返る。		○		
		1 編 生物の特徴					

6	2章 生物とエネルギー					
	1節 生体とATP (2h) Let' s Start! A 生命活動とエネルギー B ATP の構造 <コラム>ATP で衛生管理 C 代謝	・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づく。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・ATP が呼吸や光合成など生体内で、エネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・ATP の構造やリン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解する。 ・ATP を利用して衛生管理が行われるなど、ATP を利用した技術があることを知る。 ・生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で、生じるエネルギーの受け渡しに ATP が利用されていることを理解する。	一学期期末考查	○		
	2節 酵素のはたらき (2h) Let' s Start! 実習 3 酵素のはたらき やってみよう 生のパイナップルと缶詰のパイナップルでみられる酵素のはたらきの違い A 酵素 やってみよう 私たちの体ではたらく酵素 やってみよう 酵素の基質特異性 <発展>酵素の性質	・ゼラチンでつくった生のパイナップルのゼリーが固まらないことから、酵素の存在に気づかせる。 ・生のパイナップルを用いて、寒天のゼリーとゼラチンのゼリーがどのように変化するかを観察し、ゼラチンと寒天の主成分の違いから、パイナップルに含まれる酵素の性質を考察する。 ・缶詰のパイナップルで実習と同様の操作を行うと、どのような結果が得られるかを話し合う。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・私たちの体ではたらく酵素にはどのようなものがあるのか調べてみる。 ・酵素の基質特異性について調べ、報告書を作成してみる。 ・酵素の基質特異性が何によってもたらされているのかについて理解する。 ・酵素の主成分がタンパク質であることから、最適温度と最適 pH という性質が生じることを知る。		○	○	○
	3節 呼吸と光合成 (2h) Let' s Start! A 呼吸 <発展>ミトコンドリアの構造とはたらき	・運動をすると空腹になることに気づく。 ・呼吸におけるグルコースの分解反応について理解する。 ・呼吸と燃焼の違いを理解する。 ・呼吸の場であるミトコンドリアの構造について理解を深める。		○	○	○

		B 光合成 まとめてみよう 代謝を図で整理 <発展>葉緑体の構造とはたらき <発展>細胞内共生説	・ミトコンドリアでは、解糖系，電子伝達系，クエン酸回路の3つの過程を経て呼吸反応が進行することについて理解を深める。 ・光合成は，ATP の合成から始まることを理解する。 ・真核細胞内では，光合成は葉緑体で行われ，原核細胞では細胞質基質で行われることを理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って，代謝を図で整理する。 ・光合成の場である葉緑体の構造について理解する。 ・光合成が，チラコイドで行われる反応とストロマで行われる反応からなることを理解する。 ・細胞内共生説について理解を深める。				
		章末まとめ (1h) ・用語の確認 ・まとめ図	・1 編 2 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・1 編 2 章で学習した内容を図で振り返る。		○		
	7	2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 遺伝情報と DNA					
		1 節 生物と遺伝子 (2h) Let' s Start! A 遺伝情報と形質 B DNA と染色体 C ゲノム やってみよう ゲノムの英単語の由来 <発展>ゲノムプロジェクトとオーダーメイド医療	・複数の親子の写真をもとに，遺伝するものと遺伝しないものがあることに気づかせる。 ・親の形質が子に引き継がれることを遺伝といい，遺伝は遺伝情報である DNA によって担われていることを理解する。 ・遺伝情報にはさまざまな形質に対応する情報が含まれ，父母の双方からの形質が別々に伝わることで，同じ生物の間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。 ・真核生物では，DNA が染色体の成分として存在することを理解する。 ・生命の維持に必要な 1 組の DNA をゲノムといい，真核生物の細胞には両親に由来する 2 組のゲノムが含まれることを理解する。 ・相同染色体とは何かを理解する。 ・ゲノムという単語の由来を調べてみる。 ・ゲノムプロジェクトについて理解を深める。 ・ゲノムの解読方法の進歩により，個人のゲノムを利用した医療などが可能になりつつあることについて理解を深める。	一学期中間考査	○	○	○
		2 節 DNA の構造 (3h) Let' s Start! 実習 4 DNA 模型の作製 A 塩基の相補性	・DNA の分子モデルの写真から，DNA の構造にある規則性や特徴に気づかせる。 ・DNA 模型の作製を通して，遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を見いだす。 ・結合する塩基に相補性があることを理解する。		○	○	○

		B DNA の構造 C 塩基の並び方 やってみよう シャルガフの結果について話し合う やってみよう 塩基の比率を計算する <コラム>DNA の構造を探った科学者たち	・DNA の二重らせん構造の特徴を理解する。 ・塩基配列の違いによって、生物ごとに遺伝情報が異なることを理解する。 ・シャルガフの結果が、DNA の構造の解明にどのような役割を果たしたのかについて話し合う。 ・シャルガフの規則をもとに、塩基の割合を計算する。 ・DNA の構造の解明に尽力した科学者について知る。				
		3 節 DNA の複製と分配 (2h) Let' s Start! 実習 5 DNA が 2 倍になるしくみ A DNA が複製されるしくみ B 細胞の分裂と DNA まとめてみよう DNA の構造を図で整理	・細胞分裂のどこかの段階で DNA が倍になっていることに気づく。 ・DNA の 2 本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料から、塩基の相補性が DNA の複製のしくみに関わっていることを見いだす。 ・塩基の相補性により DNA が正確に複製されることを理解する。 ・DNA の複製は正確に行われることを理解する。 ・細胞周期の概要を理解する。 ・ここまで学習した用語を使って、DNA の構造を図で整理してみる。		○		○
		章末まとめ (1h) ・用語の確認 ・まとめ図	・2 編 1 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・2 編 1 章で学習した内容を図で振り返る。		○		
2	9	2 編 遺伝子とそのはたらき 2 章 遺伝情報とタンパク質の合成					
		1 節 タンパク質 (1h) Let' s Start! A タンパク質とアミノ酸 B 生命活動とタンパク質 やってみよう 食品の栄養成分表示	・タンパク質が身近な食材に存在していることに気づかせる。 ・タンパク質はアミノ酸がつながった分子であることを理解する。 ・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。 ・生命活動には多種多様なタンパク質が関与していることを理解する。 ・食品の栄養成分表示を見て、タンパク質を多く含む食品を探してみる。	二学期中間考査	○		
		2 節 タンパク質と遺伝情報 (3h) Let' s Start! 実習 6 アミノ酸と DNA の対応 A DNA からタンパク質へ <発展>アミノ酸の構造と種類 B RNA と DNA の違い	・遺伝情報は、ATGC の 4 つの文字のみで表現されていることから、4 文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることに気づく。 ・DNA の塩基配列と、それに対応するタンパク質のアミノ酸配列に関する資料から、両者の関係を見いだす。 ・DNA の遺伝情報は、まず mRNA に転写された後、アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ (セントラルドグマ) を理解する。 ・アミノ酸の構造と種類について理解を深める。 ・RNA の特徴と DNA との違いを理解する。		○	○	○

		<発展>デオキシリボースとリボース C 転写と翻訳 D 遺伝暗号表 <発展>転写・翻訳のしくみ	・デオキシリボースとリボースの違いについて理解を深める。 ・転写と翻訳の過程について理解する。 ・mRNA の塩基 3 つの組をトリプレットと呼び、各トリプレットがそれぞれアミノ酸に対応していることを理解する。 ・コドンとアミノ酸の対応をまとめた遺伝暗号表について理解する。 ・転写と翻訳のしくみについて理解を深める。				
		3 節 細胞の分化と遺伝子 (1h) Let' s Start! A 細胞の分化 B 遺伝子の発現 まとめてみよう セントラルドグマを図で整理 やってみよう ヒトの組織や器官に含まれる細胞	・1 個の細胞 (受精卵) から、さまざまな種類の細胞が生じることに気づく。 ・1 個の細胞がさまざまに分化して個体をつくっていることを理解する。 ・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで、多種の細胞に分化することを理解する。 ・ここまでで学習した用語を使って、セントラルドグマを図で整理してみる。 ・ヒトの組織や細胞に含まれる細胞には、どのような種類があるのかを考えてみる。		○		○
		章末まとめ (1h) ・用語の確認 ・まとめ図	・2 編 2 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・2 編 2 章で学習した内容を図で振り返る。		○		
	10	3 編 ヒトの体の調節 1 章 ヒトの体を調節するしくみ					
		1 節 体内環境 (2h) Let' s Start! A 体内環境をつくる体液 <コラム>体の中の体外環境 やってみよう 体重に占める体液の割合を調べる <コラム>ヒトの体温調節は優れたもの B 体内環境を維持するしくみ	・ヒトの体温の例から、気温の異なる環境下でも、体温が一定の範囲内に収まっていることに気づく。 ・体内環境と体液の関係について理解する。 ・消化管や気管は体内にありながら、その内腔が外界との境界であることから体外環境として分類されることを理解する。 ・体液の割合について調べる。 ・さまざまな動物の体温と気温の関係のグラフより、ヒトの体温調節機構の特徴を見いだして理解する。 ・ヒトの体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解する。	二学期期末考查	○		
		2 節 神経系による情報伝達 (3h) Let' s Start! 実習 7 運動の前後の体の変化 A 神経系	・空腹時における不随意に体に起こる反応の例から、無意識に体内環境が調節されていることに気づく。 ・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。 ・神経系の構成を知る。		○	○	○

		B 自律神経系による調節 やってみよう 緊張とリラックスについて考える やってみよう 実習 7 を振り返る やってみよう 日常生活とのつながりを話し合う C 脳の構造とはたらき まとめてみよう 神経系を図で整理 <コラム>脳死について	・体内環境の維持と自律神経系による調節を関連づけて理解する。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考え説明する。 ・交感神経と副交感神経の違いについて神経伝達物質の違いに着目して理解を深める。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考える。 ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。 ・ここまでに学習した用語を使って、神経系を図で整理する。 ・脳死をめぐる見解について、さまざまな立場の人の意見を調べ、自分の考えを深める。			
11	3 節 内分泌系による情報伝達 (1h) Let' s Start!	A ホルモンによる調節 B ホルモンの分泌量の調節 まとめてみよう 内分泌系を図で整理	・日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中枢として機能することを理解する。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って、内分泌系を図で整理する。		○	○
	4 節 血糖濃度の調節 (2h) Let' s Start! 実習 8 血糖濃度の調節	A 血糖濃度を調節するしくみ まとめてみよう 血糖濃度の調節のしくみを図で整理 B 糖尿病とは やってみよう 患者数の推移と生活様式の変化を考える <コラム>体温の調節 特集 人体図鑑	・身近な商品のパッケージから血糖値とは何か考える。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・ここまでに学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関係について理解する。 ・糖尿病の患者数の変化を食事や移送手段の変化など生活と関連したデータをもとに考える。 ・体温の調節機構について、関係する器官と支配のしくみを知る。 ・人体の構造や各器官の役割について考える。		○	○
	章末まとめ (1h)	・用語の確認 ・まとめ図	・3 編 1 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・3 編 1 章で学習した内容を図で振り返る。		○	

		3 編 ヒトの体の調節 2 章 免疫のはたらき				
12	1 節 免疫のしくみ (2h) Let' s Start! A 体を守るしくみ 資料の読み取り 好中球のはたらきの観察 B 自然免疫 C 適応免疫 D 血液凝固 特集 免疫のしくみ	・風邪の症状を考える。 ・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。 ・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気付く。 ・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。	二学期期末 考査	○	○	
	2 節 免疫の応用 (2h) Let' s Start! 実習 9 体内の抗体の量の変化 A 記憶細胞と二次応答 やってみよう 免疫記憶が維持される期間を調べる やってみよう 3 回目の侵入に対する応答を話し合う コラム 幅広い数値を扱うグラフ B 免疫グロブリン やってみよう 免疫グロブリンの種類を調べる 発展 抗体の構造 C 予防接種とワクチン やってみよう さまざまなワクチンについて調べる コラム 血清療法	・予防接種について考える。 ・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・体内で免疫記憶が維持される期間を調べる。 ・3 回目の抗原侵入について予想してみる。 ・対数グラフについて知る。 ・免疫グロブリンのはたらきや特徴を理解する。 ・書籍やインターネットで免疫グロブリンについて調べる。 ・抗体について構造を学習することで理解を深める。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・乳幼児期に接種するワクチンと感染症について調べる。 ・血清療法のしくみと歴史を知る。		○	○	○
	3 節 免疫とさまざまな疾患 (2h) Let' s Start! A アレルギー やってみよう 食品のアレルゲン表示と食品以外のアレルゲンを調べる 発展 花粉症の起こるしくみ B 自己免疫疾患 やってみよう 自己免疫疾患を調べる C HIV と AIDS まとめてみよう 免疫を図で整理	・アレルギーについて考える。 ・アレルギーの定義や症状について理解する。 ・アレルゲンについて調べる。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・1 型糖尿病などの自己免疫疾患について理解する。 ・対象となる器官の違いによって、さまざまな自己免疫疾患があることについて知る。 ・AIDS を例に免疫機能の低下による疾患について理解する。 ・免疫について整理する。		○		○

		コラム パンデミックを防ぐ戦い	・天然痘ワクチン発明の経緯や、エビデミックやパンデミックの歴史を知る。				
		章末まとめ (1h) ・用語の確認 ・まとめ図	・3編2章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・3編2章で学習した内容を図で振り返る。		○		
3	1	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移					
		1節 身のまわりの植生 (2h) Let's Start! 実習 10 身近な植生と環境の観察 A 環境形成作用 やってみよう 実習 10 の写真から生物的環境と非生物的環境に分ける B 階層構造 やってみよう 森林に関する絵や写真から階層構造を見る C 土壌	・さまざまな環境に多様な植物が生育していることに気づく。 ・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・実習 10 を振り返り、環境要因を振り返り、環境要因を理解して体系的に分類する。 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・身近な資料から森林の構造を考える。 ・環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。	学年末 考査	○	○	○
		2説 植生の遷移 (3h) Let's Start! 実習 11 植生の遷移の要因 A 遷移と環境 コラム 遷移と光合成 B ギャップ更新と二次遷移 やってみよう 自然災害のあと森林がたどる遷移を考える	・身近な空き地の変遷から、植生が時間とともに変化することに気づく。 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の原因を見いだして理解する。 ・植生の遷移についてモデル的な過程に基づいて理解する。 ・極相林でも起きる植生の変化について、ギャップに着目して理解する。 ・二次遷移について、一次遷移と二次遷移との違いに注目して自然災害について考える。		○	○	○
		2 3節 遷移とバイオーム (3h) Let's Start! 実習 12 森林・草原・砂漠と遷移の関係 A 遷移とバイオーム 特集 世界のおもな陸上のバイオーム	・標高が高い所では森林が形成されないことから、環境によって遷移の結果が異なることに気づく。 ・世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。 ・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。 ・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。		○	○	○

		B 日本のバイオーム やってみよう 日本の地域ごとの気候を調べる やってみよう 「樹木の葉図鑑」から樹木の葉を見る まとめてみよう 「植生と遷移」について図で整理する 特集 日本のおもなバイオームと特徴的な樹木	・日本のバイオームについて，遷移と関連づけて理解する。 ・地域ごとの気候を調べ，自分の住んでいる地域と比較する。 ・身近な葉から種の同定を試みたり，葉を通して樹木の共通性と多様性を考えたりする。 ・植生と遷移について図で整理する。 ・日本のバイオームについて遷移と関連付けて知る。				
		章末まとめ（1h） ・用語の確認 ・まとめ図	・4編1章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・4編1章で学習した内容を図で振り返る。		○		
		4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性					
		1節 生態系における生物の多様性（2h） Let' s Start! 実習 13 地表を歩きまわる生物の観察 A 食物網と生態ピラミッド やってみよう 生鮮食料品をピラミッドに合わせて分ける B 生物の多様性と環境 やってみよう 樹木の有無による生物種の多様性の違いを考える コラム 無選別ちりめんじゃこの中の生物の多様性 発展 生物の多様性の3つの視点	・ひとすくいのちりめんじゃこから，ある環境の中にさまざまな生物が存在していることに気づく。 ・ピットフォールトラップから生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・食物網について理解する。 ・身近な食料品について，生態系の視点を用いて考えてみる。 ・バイオームと種多様性の関係について理解する。 ・実習 13 を振り返り，検討する。 ・Let' s Start! で見たちりめんじゃこを例に，生態系内の生物種の多様性を知る。 ・生物の多様性について3つの視点から理解を深める。	学 年 末 考 査	○	○	○

	2 節 生態系における生物間の関係 (2h) Let' s Start! 実習 14 生態系から特定の生物を除去したときの影響 やってみよう ヒトデ以外の生物を除去したときの影響 A 生物間の関係性 やってみよう ラッコと漁獲量ではどのような間接効果があるか B 生物種の絶滅 コラム オオカミの再導入 コラム ラッコと漁獲量	・ニホンリスを例に、生態系において生物どうしがかわり合っていることに気づく。 ・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。 ・食物網について理解する。 ・キーストーン種について理解する。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・絶滅について理解する。 ・オオカミの再導入の例から、生態系を回復させる手法について知る。 ・ラッコの減少を例に生態系の変化について知る。		○	○	
3	3 節 生態系と人為的攪乱 (2h) Let' s Start! 実習 15 生活排水の流入による河川への影響 やってみよう 河川に生活排水が流れ込まない工夫 A 人為的攪乱 コラム 熱帯多雨林の減少と私たちの生活 B 生態系のバランス コラム 生活排水の中のマイクロプラスチック	・台風や伐採の例から、生態系のバランスには変化が起きることに気づく。 ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・身近な事例として、生活排水の処理について調べる。 ・人為的攪乱について、生物の多様性との関係を理解する。 ・熱帯多雨林の例から、日々の生活が大きな環境問題とつながっていることを知る。 ・台風や大雨などの自然攪乱について理解する。 ・生態系の復元力 (レジリエンス) について、生態系のバランスとの関係を理解する。 ・近年問題視されているマイクロプラスチックの問題について知る。		○	○	○
	4 節 生態系の保全 (3h) Let' s Start! 実習 16 高速道路の建設に伴う環境アセスメント A 環境アセスメント やってみよう 環境アセスメントの始まった時期を調べる B 生態系サービス	・商品のパッケージからの例から、日々の生活と生態系の保全との関係に気づく。 ・環境アセスメントの具体的な事例を基に、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。 ・生物多様性の保全にはそれぞれの立場からの努力や協力が必要であることを理解する。 ・環境アセスメントの実施が始まった時期を調べ、環境問題への関心が高まった背景について考える。 ・生態系サービスについて、私たちの生活と関連づけて理解する。		○		○

		コラム 多様性を守る認証制度 C 外来生物が生態系に与える影響 資料の読み取り 琵琶湖における外来種の影響をグラフから読み取る コラム レッドデータブック D ヒトの生態系の共存 やってみよう 地域内の里地里山を調べる まとめてみよう 生態系とその保全を図で整理する	・ 認証制度について知る。 ・ 人間の活動が生態系に与える影響について理解する。 ・ 琵琶湖における外来生物の影響から、人間による生物の導入が生態系に与える影響を考える。 ・ 人間生活の影響が低下したことによっても、生態系が変化することについて理解する。 ・ 環境省が定めたレッドデータブックについて知る。 ・ 日々の生活の見直しが、生態系の保全につながることを理解する。 ・ 地域の里山里地を調べ、里山里地を保全する活動について知る。 ・ 生態系とその保全について整理する。				
		章末まとめ (1h) ・ 用語の確認 ・ まとめ図	・ 4 編 2 章で学習した内容を生物用語で振り返る。 ・ 4 編 2 章で学習した内容を図で振り返る。		○		
		結章 生物基礎と私たち (4h)					
		Let' s Start! A 生物の特徴と私たち やってみよう 1. 身のまわりの生物の共通性と多様性を考える 2. 身のまわりのエネルギーを利用している場面を撮影し、タイトルをつける B 遺伝子のはたらきと私たち やってみよう 1. 遺伝子とまわりのものを関連付ける 2. 「DNA の複製」「DNA のタンパク質の合成」を成長する過程で説明する C 体内環境と私たち やってみよう 1. 身近なエピソードから体内で起こる変化を説明しよう 2. 体内環境を維持するしくみと健康を関連付けた作品をつくる D 生態系と私たち やってみよう 1. SDGs の目標を踏まえて身のまわりとの関係を考える 2. 169 のターゲットのなかから自分ができそうなことと解決策を発表する E あなたにとっての生物基礎	・ 生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。	学 年 末 考 査		○	○

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	2 単位	学年・学科	全学科 2 学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ 2022				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらす、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める	一斉・グループ	ラジオ体操
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ	個別	水泳
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ		球技
7		○仲間との協力とともに技能を高める		補習(水泳)
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ	球技
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。	個別	陸上競技
11	陸上競技(長距離走)	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		補習(長距離)
12	球技選択			ロードレース
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための	一斉・グループ	球技
2	球技選択	運動、実生活に生かせる運動を行う。	個別	陸上競技
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保健	単位数	1単位	学年・学科	全学科2学年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館)				
副教材等	現代高等保健ノート(大修館)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	健康の考え方 生活習慣病などの予防と回復	○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化 ○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
9 10 11 12	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 精神疾患の予防と回復 現代の感染症とその予防	○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ○精神疾患の特徴、予防 ○健康に関する意思決定、行動選択 ○現代感染症と予防	一斉授業 グループワーク	平常考査 学期末考査
1 2 3	安全な社会作り 応急手当	○事故の現状と発生要因 ○交通安全 ○応急手当の意義とその基本 ○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理	一斉授業 グループワーク 実習	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
評価の観点	生涯を通じると健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらをあらわしている。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法割合等	・定期考査・平常考査 ・提出物・発表	・定期考査 ・提出物 ・授業状況 ・平常考査 ・発表	・定期考査 ・平常考査 ・授業態度・出席状況
	4割	3割	3割

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 2年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ（数研出版）				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル①、②（数研出版）、チャンクで英単語Basic、ドリルノート（三省堂）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】（＝【主】）、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 1 Places Worth Visiting	・ダイキとエラの旅先での体験について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・S＋V＋O＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・行ってみたい場所を発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・関連する語句 ・want＋人＋to do ・行ってみたい場所について英語で書く・発表する	平常考査 中間考査
6 7	Lesson2 Iwago Mitsuaki パフォーマンステスト	・岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・疑問詞＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【思・判・表】	・関連する語句 ・疑問詞＋to 不定詞 ・お気に入りの写真について英語で自分の意見を書いたり、話したりする。	平常考査 期末考査
9 10	Lesson 3 The Haka	・ハカについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・分詞を用いて、自分の周りについて伝え合う技能を身につける。【知識・技能】 ・興味のある世界の文化について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関連する語句 ・分詞 ・興味のある世界の文化について書いたり、話したりする。	平常考査 中間考査
11 12	Lesson 4 Digital Detox パフォーマンステスト	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】	・関連する語句 ・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表する。	平常考査 期末考査
1 2 3	Lesson 5 Goal Setting パフォーマンステスト Lesson 6 The High School Hair Salon	・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・seem＋to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 ・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞＋have＋過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。	・seem＋to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。 ・助動詞＋have＋過去分詞 ・就きたい職業について発表する。	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し、正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査・平常考査】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・授業中に積極的に質問したり、答えようとしている。 ・他の生徒の発表を聞いたり、発表しようとしている。 ・提出物を期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

科目「家庭総合」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭総合	単位数	2単位	学年・学科	2学年・農業、園芸、畜産科学、食品化学
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍）				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	家族や家庭の生活の営みを総合的にとらえ、生活をマネジメントする能力を育てる
学習の到達目標	生活のなかで課題を見いだし、それを解決するための手立てを考え実践に繋げる
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	社会の動きに関心を持ち、把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	子どもの発達と保育・福祉 ・子どもの発達と生活 ・親の役割と子育て支援 高齢者の生活と福祉 ・高齢者の生活と課題	・子どもの心身の発達を理解する ・親の役割を考え、子育て支援制度について知る。 ・高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者や家族が抱える課題を知る。	・調理実習 ・絵本の読み聞かせ ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
9 10 11 12	・高齢社会の福祉 共生社会における地域や家族 食べる	・福祉制度を理解し、これからの高齢社会について考えることができるようになる ・地域福祉と社会保障について理解する ・栄養素のはたらきを理解させる	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学期末考査
1 2 3	・食品と栄養 ・食品の衛生と安全 ・これからの食生活	・正しい食品の選択ができるようになる ・基礎的な調理技術を身につけさせる ・持続可能な食生活について考える	・一斉授業 ・調理実習	レポート 小テスト 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
生活を主体的に営むために必要な保育および高齢者福祉・食生活などについて科学的に理解しているとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して保育および高齢者福祉・食生活における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や地域社会の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
【定期考査・小テスト】	【定期考査、小テスト、レポート 課題プリントなど】	【レポート、授業態度等】
4割	3割	3割

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業(総合実習)	単位数	3単位	学年・学科	2学年 園芸科
使用教科書					
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、農業に関する諸問題を主体的、合理的に解決し、農業の充実と社会の発展を図る創造的、実践的な能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、管理能力や企画力などの農業の各分野の改善を図る実践的な態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定（2級・3級）
授業を受ける心構え	授業で習ったことを実際に体験し理解を深める。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	施設・路地野菜、ブドウ、モモ、花苗、鉢花の生育と管理	園芸作物の生育と管理を理解し、基礎的な栽培技術を身につけられるよう指導する。	班別実習、調査、座学等	科目野菜」「果樹」「草花」の連携、農業クラブ活動、考查
6 7	野菜、ブドウ、モモの収穫・調整と草花の管理	園芸作物の収穫と調整技術、草花の管理を身につけるとともに品質向上品質の向上や消費者のニーズに配慮した商品化を図る能力を習得させる。	班別実習、調査、座学等	学期末考查
9 10 11 12	各種野菜・果樹・草花の栽培管理	野菜・果樹・草花の収穫や販売を通して、商品化に必要な調整技術と接客態度を身につけさせる。 農場実習や各種の行事を通して、使命感とともに、企画・立案能力を身につけさせる。	班別実習、調査、座学等	学期末考查
1 2 3	次作の準備 専攻学習への準備 学習のまとめ	次作の準備に必要な内容や方法について理解させ、計画的な栽培の在り方について学ぶ。 1年間の学習のまとめと成果の報告を行う。	班別実習	学年末考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考查】 【平常考查】 確認テスト 実習 等	【定期考查】 【平常考查】 授業態度・発表 提出物	【平常考查】 ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4割	3割	3割

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	園芸科2年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	特記なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	文書デザイン検定2級・3級 表計算検定2級・3級
授業を受ける心構え	興味・関心・意欲を持つ。集中力を持って臨む。

2. 学習指導計画

月	学習内容 (目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1. コミュニケーションと文書デザイン	グローバル化に伴う高度情報通信社会の特質、情報通信ネットワークとデータとの相関関係や、これらを農業の各分野における情報の収集、整理、調査・分析し、活用するための資質と能力を養い、職業人として情報社会に主体的に参画する態度を育成する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考査 平常考査
9 10 11	2. スマート農業への展望	情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）などの先端技術を活用し、省力化や精密化、大規模生産や品質の向上などを進めた次世代農業について理解する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	中間考査 期末考査 平常考査
12 1 2 3	3. 農業情報の分析と活用	各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術を習得するとともに、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	学年末考査 平常考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査】 【平常考査】 確認テスト 実習 等	【定期考査】 【平常考査】 授業態度・発表 提出物	【平常考査】 ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4 割	3 割	3 割

科目「野菜」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	2単位	学年・学科	2学年 園芸科
使用教科書	実教出版 『野菜』				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	野菜に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をととして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
学習の到達目標	野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を理解させ、野菜の特性や栽培に適した環境を習得させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定（2級・3級）
授業を受ける心構え	授業では野菜の特性や知識を、実習では体験することによって理解を深める。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1. 野菜生産の役割と動向 2. 農業技術検定学習 3. 露地野菜の栽培管理	1. 野菜の生産と消費の動向、安全な野菜づくりについて理解することができる。 2. 農業技術検定に向けて学習に取り組む。 3. 露地野菜の栽培について理解を深める。	・一斉授業 ・実習	中間考査 学期末考査
9 10 11 12	1. 野菜の生育と生理 2. 野菜の栽培環境と生育調節 3. 農業技術検定学習 4. 露地野菜の栽培管理	1. 播種～収穫までの野菜の生育と生理について理解することができる。 2. 野菜を取り巻く栽培環境とその影響について理解することができる。 3. 農業技術検定に向けて学習に取り組む。 4. 露地野菜の栽培について理解を深める。	・一斉授業 ・実習	中間考査 学期末考査
1 2 3	1. 人工環境における栽培技術 2. 施設野菜の栽培管理	1. 様々な栽培技術があることを知り、それらの特徴について理解を深める。 2. ビニルハウスの設営等を通して、野菜栽培における施設の利用について理解する。	・一斉授業 ・実習	学年末考査

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
	野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法・割合等	【定期考査】 【平常考査】 確認テスト 実習 等	【定期考査】 【平常考査】 授業態度・発表 提出物	【平常考査】 ポートフォリオ 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物
	4割	3割	3割

科目「果 樹」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	果 樹	単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 園芸科
使用教科書	果樹（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術の習得
学習の到達目標	果樹の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、果樹の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得可能な資格	農業技術検定
授業を受ける心構え	授業・実習に積極的かつ継続的に取り組む姿勢を大切にする。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6	果樹生産と利用、果樹の成長と果実の生産	果樹の利用と栽培、分類、枝の種類、整枝法と樹形等の基本的な知識を習得させる。	総合実習との関連	定期考査
7	栽培の基礎	気象条件、土質、生物的条件、等について理解させる。		
9 10 11	ブドウの品種、生育と栽培管理	ブドウの生育過程、生理作用、環境要素が果樹に与える影響及びブドウ栽培の技術の仕組みを習得させる。	総合実習との関連	定期考査
12	カキの品種、生育と栽培管理	カキの生育過程、生理作用や、カキ栽培の技術の仕組みを習得させる。		定期考査
1 2	モモの品種、生育と栽培管理	モモ栽培の技術の仕組みを理解させる。	総合実習との関連	定期考査
3	クリの品種、生育と栽培管理	クリ栽培の技術の仕組みを理解させる。		

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	果樹の特性について学び、生育経過・管理手順等を体系的に学び、理解している。栽培の手順をしっかりと学び、指示した内容が的確に行い、説明をすることができる。	栽培を通して、様々な問題に直面した場合、自ら考え判断する力が備わっている。 果樹の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているか。	果樹栽培の実践を通して、果樹の生育経過を観察し、興味・関心を持って積極的に取り組める。 果樹の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付けているか。
評価の方法・割合等	・定期考査 ・平常考査 ・技能試験 等 ・学習・実習状況	・定期考査 ・平常考査 ・授業記録 ・プリント感想 ・技能試験作品・学習（実習）状況等	・学習（実習）状況・出席、準備 ・プロジェクト学習・授業態度等
	4 割	3 割	3 割

科目「草花」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	草花	単位数	2単位	学年・学科	2学年 園芸科
使用教科書	実教出版 『草花』				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	草花の栽培と経営に必要な知識と技術の習得
学習の到達目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要とされる資質・能力を育成することを目指す。 （１）草花の開花と環境調節について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）草花の開花と環境調節に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）草花の開花と環境調節について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	
授業を受ける心構え	実習で行う管理内容の意味や栽培の流れなど詳細説明や草花の特性について学ぼう。自分で考え、表現し、活動に意欲的に取り組みましょう。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	草花を学ぶにあたって 草花生産と消費の動向 本校の生産草花の特徴	草花の利用と栽培、分類、品種等の基本的な知識を習得する。自ら学び取り組む。 草花の生育過程、生理作用、環境要素が草花に与える影響及び栽培技術の関連性を理解習得する。	一斉学習 実習 実技作品	平常考查 学期末考查
9 10 11 12	生活と草花の利用 草花の栽培と管理評価 鉢もの・花壇苗生産 プロジェクト学習	各種の草花は、装飾材料や園芸材料など生活環境を創造する素材として供給され、医療・福祉・教育などの場面で利用されてSDGsとも関連づけた学習を行う。 シクラメン、花苗、校内の草花などの生育過程、生理作用、環境要素が与える影響や栽培技術の装姿の評価方法を習得する。	一斉学習 実習 実技作品	平常考查 学期末考查
1 2 3	草花生産と経営の実践 プロジェクト学習	草花全体の生育過程、栽培技術、草花の活用など課題解決に向けての仕組みを習得する。 草花のプロジェクトを主体的、意欲的に取り組むことができるようにする。	一斉学習 実習 実技作品	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	草花の生産と経営について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているか。	草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付けているか。
評価の方法・割合等	・ 定期考查・平常考查 ・ 技能試験作品 等 ・ 学習（プリント・実習）状況	・ 定期考查 ・ 平常考查 ・ 授業記録 ・ プリント感想 ・ 技能試験作品・学習（実習）状況等	・ 学習（実習）状況 ・ 出席、準備 ・ プロジェクト学習 ・ 授業態度等
	4割	3割	3割

科目「農業経営」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業経営	単位数	1 単位	学科・学年	園芸科 2 学年
使用教科書	農業経営（実教出版）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	農業経営の①設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、②コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、③経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特記なし
授業を受ける心構え	自ら学びとろうとする姿勢で、世界情勢や日本の農業経営の在り方について、常に問題意識を持ち、授業に参加する。

2. 学習指導計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・ 農業の動向と農業経営 ・ 農業経営の組織と運営	日本と世界の農業の動向とその相互関係について学習させ、我が国の農業の特質と産業としての農業の重要性を理解させる。	座学 ワークシート	平常考查 期末考查
9 10 11 12	・ 農業経営の組織と運営 ・ 農業経営と情報	農業経営に関する内部と外部の情報収集と活用に関する知識と技術を習得させ、情報の分析の仕方を理解させるとともに、農業経営情報を活用する実践力を育成する。	座学 ワークシート	平常考查 期末考查
1 2 3	・ 農業経営の会計	農産物の原価計算や複式簿記による取引の記帳から決算までの知識と技術を習得する。	座学 ワークシート	平常考查 学年末考查

3. 評価の観点と方法

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けているか。	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。
評価の方法・割合等	・ 定期考查・平常考查 等 ・ 学習（実習）状況	・ 定期考查 ・ 平常考查 ・ 授業記録 ・ 課題レポート ・ 学習（実習）状況 等	・ 学習（実習）状況 ・ 課題レポート ・ 定期考查 等
	4 割	3 割	3 割